

函館市中間検査チェックシート

建築確認番号	第 確認建築(確更建築)函館建行	号
建築確認年月日	年 月 日	
建築場所	函館市	
建築主氏名		
監理者資格	1級・2級・木造 建築士 () 登録第	号
監理者氏名		電話
施工者氏名		電話

(集団規定)

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理報告	結 果			
		施工者	監理者		一次判定	判定 月日	二次判定	判定 月日
①敷地の安全性 (法19条) 市条例等	1. がいけ又は擁壁の安全性	/	/	A・B・C		/		/
	2. 敷地の高低差	/	/	A・B・C		/		/
②敷地と道路の 関係 (法42条43条) 市条例等	1. 前面道路の幅員	/	/	A・B・C		/		/
	2. 接道長さ	/	/	A・B・C		/		/
	3. 敷地内通路	/	/	A・B・C		/		/
③敷地面積 容積率 建ぺい率 (法52条53条)	1. 敷地形状の確認	/	/	A・B・C		/		/
	2. 確認申請図面との照合	/	/	A・B・C		/		/
④外壁後退等 (法54条)	1. 建物配置の確認	/	/	A・B・C		/		/
⑤道路斜線等 (法55条56条 58条)	1. 各部分の高さの確認 (立面図等との照合)	/	/	A・B・C		/		/
	2. 緩和規定適用の場合の後退部分の 外構制限及び前面道路との高低差等	/	/	A・B・C		/		/
⑥確認表示板 設置(法89条)	1. 確認表示板と記載内容の確認	/	/	A		/		/
⑦工事現場の 危害の防止	政令第136条の2の16~第136の条8 仮囲い,防護ネット等	/	/	A		/		/
⑧その他		/	/	A・B・C		/		/

工事監理等への指摘事項 および不具合の処置				
合 否 判 定	一次 判定	合 格 ・ 不 合 格	二次 判定	合 格 ・ 不 合 格
検 査 年 月 日	年 月 日	検査員職氏 名		

※ 太線枠内は記入しないでください

(鉄筋コンクリート造)

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告	結 果			
		施 工 者	監 理 者		一 次 判 定	判 定 月 日	二 次 判 定	判 定 月 日
①全体	工程全体の配筋状況	1. 乱れ、踏荒し、波打ち、たるみの有無	/	/	A・C	/	/	/
	共通	1. 柱、はり、壁及びスラブの位置	/	/	A・C	/	/	/
		2. かぶり厚さの確保	/	/	A・C	/	/	/
3. 鉄筋の材質		/	/	C	/	/	/	
②地盤基礎	支持地盤	1. 支持地盤の位置、種類及び地耐力等	/	/	C	/	/	/
	基礎形状	1. 基礎の種類、くいの工法、長さ、径、位置及び偏心等	/	/	C	/	/	/
	ベース	1. ベース寸法、主筋の径、本数及び間隔、偏心による補強等	/	/	C	/	/	/
	地中ばり	1. 地中ばりの断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法及び継手(位置、長さ)、あばら筋の位置、径、間隔及び形状、偏心による補強等	/	/	C	/	/	/
③柱	柱主筋	1. 柱の断面寸法、主筋の径、本数及び配置(方向)	/	/	A・B・C	/	/	/
		2. 2段筋の位置(間隔)	/	/	A・C	/	/	/
		3. 柱頭鉄筋の止まり高さ及び主筋の出隅のフック	/	/	A・C	/	/	/
	継手	1. 主筋の継手位置、長さ、主筋出隅のフック	/	/	C	/	/	/
	帯筋	1. 帯筋の径、間隔、本数(副帯筋共)及び形状	/	/	A・B・C	/	/	/
		2. 主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強	/	/	A・C	/	/	/
		3. 仕口部分の帯筋の配置	/	/	A・C	/	/	/
		4. 第一帯筋と柱頭拘束帯筋の位置	/	/	A・C	/	/	/
		5. 帯筋のフック形状、あそび及び結束	/	/	A・C	/	/	/
④はり	はり主筋	1. はりの断面寸法、主筋の径、本数及び位置	/	/	A・B・C	/	/	/
		2. 二段筋の第一段筋との間隔及びスパン内の長さ	/	/	A・C	/	/	/
	定着・継手	1. はり主筋の水平呑込み長さ及び定着長さ	/	/	A・B・C	/	/	/
		2. 継手の位置及び長さ	/	/	A・B・C	/	/	/
		3. はり主筋出隅部の継手末端フック	/	/	A・C	/	/	/
	ふかし・貫通孔補強	1. ふかし部主筋及び補強筋、貫通孔補強筋又は既製認定品、貫通孔と主筋の離れ、複数の貫通孔の局所集中の禁止	/	/	A・C	/	/	/
	あばら筋	1. あばら筋の径、本数(副あばら筋共)及び間隔	/	/	A・B・C	/	/	/
		2. あばら筋のフック形状、あそび及び結束	/	/	A・C	/	/	/

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告	結 果				
		施 工 者	監 理 者		一 次 判 定	判 定 月 日	二 次 判 定	判 定 月 日	
⑤スラブ 庇及び階段を含む	スラブ筋	1. スラブ厚さ寸法、鉄筋径及び間隔	/	/	A・B・C		/		/
		2. 主筋配置(短辺・長辺及びベンド配筋)及び支持条件	/	/	A・C		/		/
	定着・ 重ね継手	1. 定着長さ及び方法(はり・隣接スラブ・ 段差スラブ定着)	/	/	A・B・C		/		/
		2. 片持スラブの定着及び上端筋の位置 確保	/	/	A・B・C		/		/
		3. 継手の位置及び長さ	/	/	A・B・C		/		/
	補強筋等	1. 床スラブの出入隅部の補強	/	/	A・C		/		/
2. 開口部補強		/	/	A・C		/		/	
3. 階段部配筋及び定着・補強筋		/	/	A・B・C		/		/	
⑥壁	壁筋	1. 壁厚寸法、鉄筋の径、間隔及び位置	/	/	A・C		/		/
	定着・ 重ね継手	1. 定着長さ及び方法(はり・柱・スラブ・壁 定着)	/	/	A・B・C		/		/
		2. 重ね継手の位置及び長さ	/	/	C		/		/
	補強筋等	1. 開口部補強配筋	/	/	C		/		/
2. スリット(完全・部分)の位置、形状及び 配筋		/	/	A・C		/		/	
⑦その他	設備配管等	1. 設備配線管の配置	/	/	A・C		/		/
	ガス圧接継 手	1. 圧接部の形状等	/	/	A・C		/		/
		2. 強度	/	/	C		/		/
	特殊鉄筋継 手	1. 認定、評定工法	/	/	A・C		/		/
	型枠及び既 存打設部分 状況	1. 型枠及び支柱の締付け並びに清掃状 況	/	/	A・C		/		/
		2. 型枠支柱存置期間	/	/	C		/		/
		3. コンクリート打設後の養生	/	/	C		/		/
4. コンクリートの調合及び圧縮強度		/	/	C		/		/	
検査時に必要 な図書	<input type="checkbox"/> 工事監理状況報告書(申請書4面) <input type="checkbox"/> 認定・評定等の写し <input type="checkbox"/> 確認図書 <input type="checkbox"/> 設計図書 <input type="checkbox"/> 工事写真(中間検査時に隠蔽される部位で各工程の施工監理上重要な箇所) <input type="checkbox"/> その他検査に必要な書類等								

※ 太線枠内は記入しないでください

中間検査チェックシート項目解説

1. 中間検査留意事項

- ・ 工事監理者が、工事着工前に選任され、設計図書どおりに施工されているかを確認しているか。
- ・ 建築確認後に計画変更があった場合、計画変更確認等の手続きがされているか。
- ・ 工事監理の状況(中間検査申請書第4面)が、的確に記載されているか。
- ・ 中間検査時には、工事監理者の立会を原則とする。

2. 検査項目の解説

- ① ・ 擁壁の設置有無および申請手続きがなされているか確認する。
 - ・ 建築基準法第19条第1項～第4項までについて、確認図書と整合しているか確認する
- ② ・ 函館市建築基準条例第3条, 第4条, 第5条および第23条について、確認図書と整合しているか確認する。
 - ・ 建築基準法施行令第128条, 第128条の2および函館市建築基準条例第38条及び第40条について、確認図書と整合しているか確認する。
- ③ ・ 函館市建築基準法施行細則第21条について、確認図書と整合しているか確認する。

上記の建築物については、建築基準法施行令第136条の2の16から第136条の8規定が適用されるので、仮囲い、防護ネット等適切な措置がなされているか確認する。

鉄筋コンクリート造検査項目の解説

鉄筋コンクリート工事の中間検査では、構造耐力上重要な部位が、確認申請書および添付図書のとおり施工されているかどうかを重点的に検査する。

① 全体

工程全体の配筋状況

- 各部位の検査に先だって、工程全体の配筋状況を見渡し、鉄筋の乱れ、踏み荒し、波打ちまたはたるみ等がなく、整然と配筋されているかどうかを確認する。

共通

- 柱、梁、壁およびスラブの位置を確認する。
- かぶり厚さについては、令第79条による規定で明確な数値が記載されているので、これが確保されているか確認する。
- 鉄筋の材質等は、圧延マークや色別表示による確認方法もあるが、一般的には、工事監理報告によるミルシートで確認する。

② 地盤・基礎

支持地盤

- 工事監理報告により、根切り底の土質および地耐力等を確認する。

基礎形状

- 工事監理報告により、工事写真等で基礎の種類、配筋状況および型枠組立状況等を確認する。
- 杭打ち施工結果報告書等で工法、長さ、径、位置および杭の芯ずれ等を確認し、写真で杭頭処理や杭頭補強の状況を確認する。

ベース

- 工事監理報告により、ベース寸法、主筋の径、本数、間隔および偏心による補強等を確認する。また、配筋状況および型枠組立状況等を写真で確認する。

地中梁

- 工事監理報告により、地中ばりの断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法及び継手並びにあばら筋の位置、径、間隔及び形状並びに偏心による補強等を確認する。また、配筋状況及び型枠組立状況等を写真で確認する。

③ 柱

- 既施工部分については、工事監理報告および工事写真等で確認する。

柱主筋

- 柱筋リストで柱の断面寸法、主筋の径、本数および配置方向等を確認する。特に柱主筋の配置がX、Y方向を取り違えている場合があるので注意する。
- 柱筋リストで2段筋の位置、間隔および押え補助帯筋の状況を確認する。
- 架構詳細図または仕様書等で柱頭鉄筋の止まり高さおよび主筋の出隅のフック等を確認する。

継手

- 架構詳細図または仕様書等で主筋の継手の位置および重ね継手の長さを確認する。また、柱出隅部分の重ね継手における主筋端部のフックを確認する。

帯筋

- 柱筋リスト、架構詳細図または仕様書等で帯筋の径、間隔、本数および形状を確認する。また、柱出隅部分の重ね継手における主筋端部のフックを確認する。
- 架構詳細図または仕様書等で、主筋絞り部・折曲げ部の帯筋補強、仕口部分の帯筋の配置ならびに第一帯筋と柱頭拘束帯筋の位置を確認する。
- 仕様書等で帯筋のフック形状を確認する。また、帯筋のあそびおよび結束状況に注意する。

④ 梁

梁主筋

- 梁筋リストで梁の断面寸法ならびに梁主筋の径、本数および位置を確認する。

- ・ 二段筋(中吊り筋)の第一段筋との間隔の確保およびスパン内の長さ等を確認する。

定着・継手

- ・ 梁主筋の水平呑込み長さおよび定着長さならびに継手の位置および重ね継手の長さ等を確認する。
- ・ はり主筋出隅部の重ね継手末端部のフックを確認する。

ふかし・貫通孔補強

- ・ ふかし部主筋および補強筋等の方法は適切か。貫通孔補強筋が適切であるか。また、既製認定品の場合には認定番号および仕様等の要件を満たしているか確認する。
- ・ 貫通孔と主筋の離れおよび複数貫通孔の局所集中がないかを確認する。

あばら筋

- ・ 梁筋リストであばら筋の径、本数および間隔を確認する。また、フック形状、あそびおよび結束状況を確認する。

⑤ スラブ

スラブ筋

- ・ スラブ筋リストでスラブ厚さ寸法、スラブ鉄筋の径・間隔等を確認する。
- ・ 主筋と配力筋の方向が正しいか、またベンド位置・支持条件が適切か確認する。

定着・重ね継手

- ・ 定着長さおよび方法(梁・隣接スラブ・段差スラブ定着)を確認する。
- ・ 片持スラブの定着長さおよび上端筋の位置が適切に確保されているかを確認する。
- ・ 継手の位置および重ね継手長さが適切か確認する。

補強筋等

- ・ 床スラブの出入隅部、開口部、階段部の定着および補強筋が適切か確認する。

⑥ 壁

壁筋

- ・ 壁筋リストで壁厚寸法ならびに壁筋の径、間隔および位置等を確認する。

定着・重ね継手

- ・ 定着長さおよび方法(梁・柱・スラブ・隣接壁定着)を確認する。
- ・ 重ね継手の位置および長さが適正に確保されているか確認する。

補強筋等

- ・ 架構詳細図または仕様書等で開口部補強筋が適切か確認する。また、スリットの位置、形状および配筋等を確認する。

⑦ その他

設備配管等

- ・ CD管等の設備配線管が局所集中したり、主筋に沿って長い距離を接触していないか確認する。

ガス圧接継手

- ・ 圧接部の形状、継手位置及び隣合う間隔等が適正か確認する。
- ・ 圧接部の強度については、超音波探傷試験又は引張試験成績書等で確認する。

特殊鉄筋継手

- ・ 特殊な鉄筋継手については、認定又は評定により承認された工法の施工要領書で確認する。

型枠及び既存打設部分状況

- ・ 型枠、支柱の締付け及び清掃状況を確認する。
- ・ 型枠支柱存置期間及びコンクリート打設後の養生が適切に行われているか確認する。
- ・ 工事監理報告により、コンクリートの調合及び圧縮強度試験について確認する。